



第61回日本腎臓学会学術総会

The 61st Annual Meeting of the Japanese Society of Nephrology

Prof. David J. Salant

テーマ : Understanding of the pathogenic mechanisms of podocyte injury

David J. Salant 先生は南アフリカの Witwatersrand 大学医学部をご卒業の後、Johannesburg 総合病院で臨床研修を修了されました。その後、William Couser 先生に師事され、1979年から Boston 大学で研究活動を始められました。これまで、ポドサイト障害における抗原抗体系、補体系の役割についての研究などで多くの業績をあげられ、150以上の学術論文、総説、著書を執筆されています。中でもホスホリパーゼ A2 受容体 (PLA2R) が特発性膜性腎症の責任抗原のひとつであるという、2009年の New England Journal of Medicine の報告は、大変インパクトのある報告です。先生は、Jean Hamburger 賞 (国際腎臓学会)、John Peters 賞 (米国腎臓学会) などを受賞されておられる大変高名な先生ですが、気さくで Friendly な先生です。このセッションは、先生と直接ディスカッションし、アドバイスを頂ける貴重な機会になると思います。若手先生方の積極的な参加をお待ちしております。

【講演スケジュール】

①セッション：総会長主導企画 1

「Podocyte Biology and Pathogenesis of Kidney Disease」

日 時：2018年6月8日(金) 9:00~11:00

会 場：第1会場 (朱鷺メッセ 1階 展示ホール B)

※Commentator

②セッション：招請講演 1

「Membranous nephropathy: Where are we now?」

日 時：2018年6月8日(金) 11:00~11:50

会 場：第1会場 (朱鷺メッセ 1階 展示ホール B)